

記者発表資料

平成25年12月6日
雲仙復興事務所平成新山周辺における空中物理探査の実施について
ー空から溶岩ドームを調査しますー

長崎県島原半島のほぼ中央に位置する雲仙岳は数百年毎に活発な噴火活動を繰り返してきた活火山です。

平成2年～平成8年の噴火活動では、火山活動に起因する土石流によって、島原半島に甚大な被害をもたらしました。

雲仙復興事務所では、大規模土砂移動対策を検討する上での基礎調査の一環として、眉山を含む平成新山周辺の山体内部の地質構造把握を把握するために、空中物理探査という手法を用いた調査を下記のとおり実施致します。

調査結果につきましては、溶岩ドーム崩壊対策や大規模土砂災害発生の可能性の検討に活用し、地域防災に役立てて参ります。

記

1. 調査期間：平成25年12月9日～平成25年12月27日のうち5日程度
(天候等の条件により順延の場合あり)
2. 調査範囲：平成新山周辺 (別添参照)
3. 調査概要：別添参照

問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 雲仙復興事務所

(0957) 64-4171 (代表)

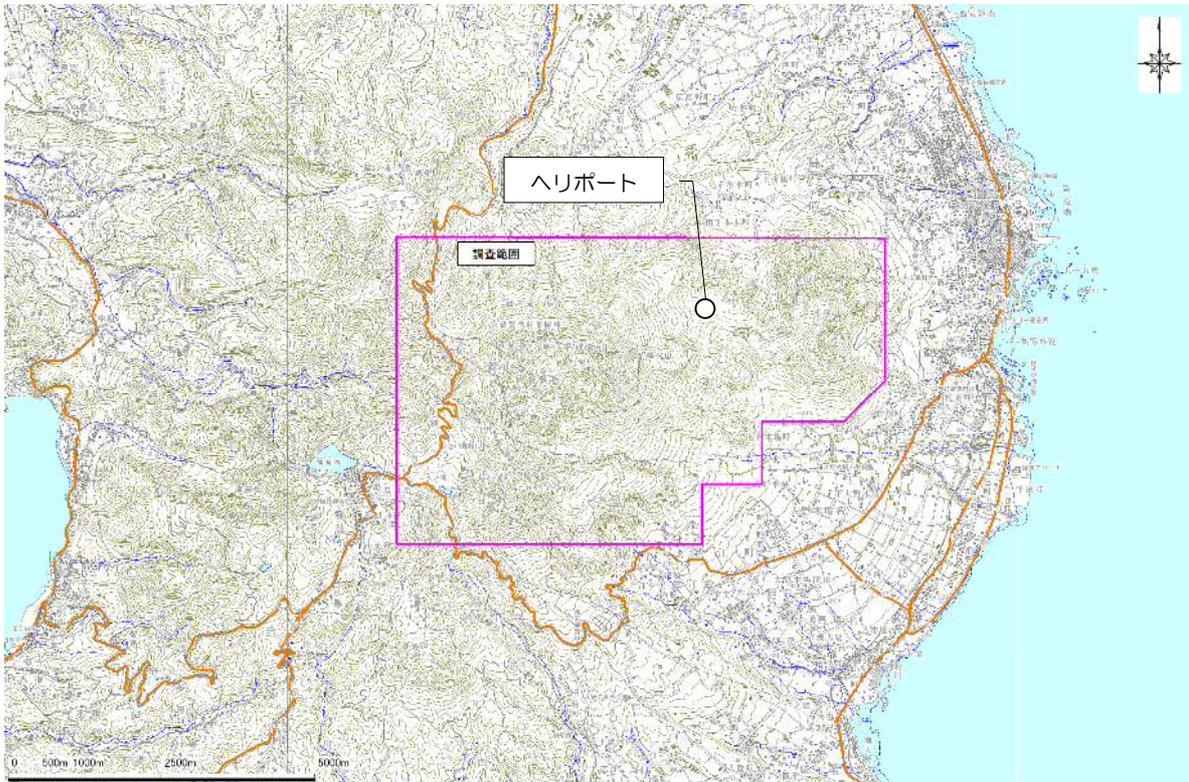
技術副所長 古賀 唯雄 (内204)

調査課長 目床 順司 (内351)

ホームページアドレス:<http://www.qsr.mlit.go.jp/unzen/>

調査範囲

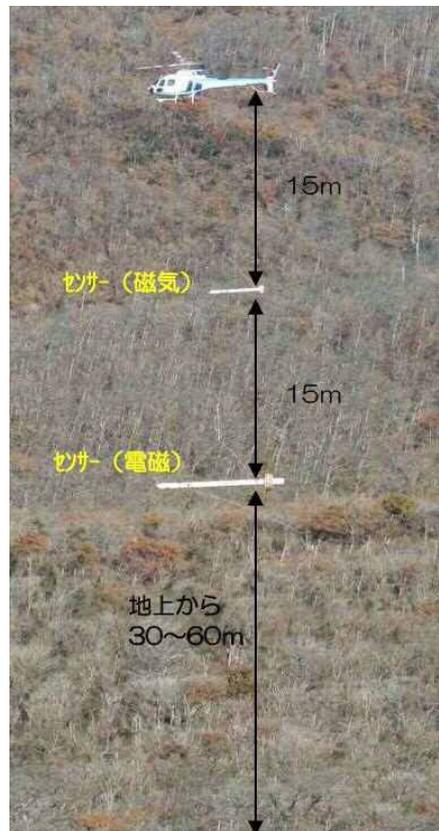
- 普賢岳西側から南側山麓および眉山周辺エリア（下図）
- ゴルフ場や人家の直上は調査範囲より除外



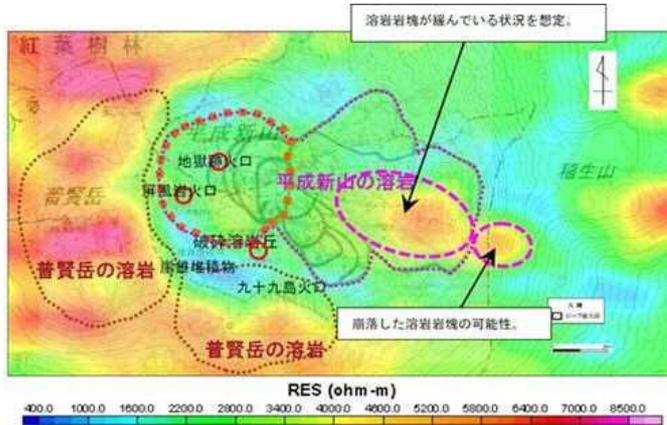
調査概要

- ヘリコプターから吊り下げたセンサーにより、「地盤の電気の流れやすさ」と「大地の磁気の強さ」を測定（右写真）
- 火山体の地質構造や地下水分布を把握
- 調査結果については、溶岩ドーム崩壊対策や大規模土砂災害発生の可能性の検討に活用

※測定に際して空中から電磁波を発信しますが、電磁波による家畜や人体への影響はありません



調査状況写真（参考）



空中電磁探査による等深度比抵抗平面図（深度 30m）と地質分布の重ね合わせ

調査結果イメージ（参考）